This copy has been provided by the UBC Archives [or UBC Rare Books and Special Collections] and is to be used solely for research or private study.

YAMAGA YASUTARŌ PAPERS

FOLDER NO.
I - 11

PLEASE RETAIN
ORIGINAL ORDER

II. 4

(11)

附録カルテ一冊

菊池家

ロールシャッハ

私の父は日曜日には イカムネを着る 掘炭 最低の男だった 方言 険好きで 出勤 牡牛 賞を 訓うすか、我々 ちという 島を 探見 出来るか 何か 新聞の あなたを 仕事を 満足しない 人であった、 無意味 人に仕へ 十人の 子女を 養育とた 私の 母は 絶えず 師の 掘に 仕事を 天使の如く 子供 を育んだ。

私達は 何時も 孤島中・人里は 離れた 荒野に 住んで居たので・母は 家内の 仕事の 外に 海や 畑を かき集めた 貝や 海草を 集めた 母は 吾々 の 為に 貝や 海草を 集めた 母は 吾々 の 為に 貝や 海草を 集めた 母は 山の ヘムロク 樹 の 葉を 集めた、母は 吾々 の 為に 貝や 海草を 集めた 母は 吾々 の 為に 貝や 海草を 集めた 母は 吾々 の 為に 貝や 海草を 集めた

吾々子供は山の枯木のある所に野
苺を見付けると、それを
のりこえ藪らを掻き分け
て辿々しくもそれを取り、野苺
を取ると母はそれ
を受け、種
子供達が数を
を吾野菜やオラ
せを知えてくれた。
母は野生のラズベ
リー、グース
ベリー、カラント、ブ
ルーベリー、ラ
ビや、奥、カニ
科で一杯に成った、
ビや、奥、カニ
科で一杯に成った、
ビや、奥、カニ
科で一杯に成った、

金等に行った海岸の山に出掛たり
ラブアプルの取りに
男なども手を振って
吾々子供等は海岸の低地に出来、
るとそれを一を振って者を
と言うを又
が集るかも知れんと
とも絶えず
、吾々は[illegible]ナイフ
ナッツ（野生）を未だ
きとり、カラカラ乾
燥したー

九月に成ってイ
栗からが落ち取って
栗拾には子供等が
大きな籠を
やつそれダーや手
やつそれダーや手
右口がスターやカ
、家だから着に
子供等各自毎日
を置き合図をれ
あつても取つて

Recom

母を安心させた。母は
日課の縫物の手を休へた
芽の子供達の労働の辛苦
は子供達に苦労をさせ
たり病気にはれんのレンを
たりを縫ふ中つた、又た男の子
芽が手伝ふ舟を作る時には、
は、樫の枝を
みに曲げたりをく
れた、

母は常に私共に
を注意おせ
時代はキヤスコ
ベーの一孤島に親戚
住んでゐた、そこで
夏休み、母の故郷
は鷹が母の鶏の
を追ひまくり、鷲が時々
の仔をさらつて行く
あとへ〳〵ふく泣きさけ
冬になると島の
は氷結を
父は苺氷に
がありれ、或時は
落ちたりもあり、又
父自身も氷

かり流れを落ち着き、私が最初に歩き始めた時、母はパイオニヤ生活の中で身に着けた、母は私のために、父が助けを呼ぶのが聞こえると母は一歩踏み出すごとに氷の上に建てられた音楽の家の上にも吾々を一人残さないと持ちを持って走り出しました。母は勇敢に危険氷の上にも吾々を連れて行きました。母は要物の端で一歩踏みこむごとに氷を突き破って、足を水の中に入れました。父が外の島に住んでいた時には、こはい噂が常に絶えませんでした。母は勇敢に危険氷の上にも吾々を連れて行きました。母は要物の端で一歩踏みこむごとに氷を突き破って、足を水の中に入れました。母は私の足を、直ぐ乾かして、母は私の足を、直ぐ乾かして、時には踊りの先生に踊りに

行き帰りには霧や大雨の中を子供等
等を集せたおーとをといいたものに
家に帰つたこともあつた、

吾々は暫くとを山猫の鳴く声の
中や大波に上下にもまれた、
成長とたのもあり、
十一月の或る晨れた朝、母はコー
ヒの皮をむいて居た、フト兄弟と
窓の外から烏の鳴とを聞きつけた土人が窓
をあける、彼れは急を知らせる為に
走り入つて来た、何も言はずに
ヒの側にかわかす為に置いた台所のスト
ーブの側にかわかす為に置いた皮をパーチ木
、そをお昼の時に渡元た、
警察早く其の籠を取りに来た、
彼れは無数をかぞへ安心をたやう
に母をねぎらひ礼をとも
彼れ母に此の元を持つ
、彼れはカヤトの原を布元れ包ん

叫、母がもいてて入れた鍋の中に灰包を揉けんだ、それは彼女の夢が何時かことを煮る時に当るまんでもあり、そうまたそうと未灰が膨らむのでライを使うと生地の粘性を一つ習得したようもうまく皮がとれる、これも母は原始生活の一つを訣てある。

——

甚次ぎに吾々の行った、吾々の一ド島と言うのである。住んだ島はボン島の隣りは二哩海を渡った他の島に在った、吾々の家に接近を置かぬと、嵐が来ると流されるのであうた、父が右おり時母、城風が強くかへる事もあり、又警綱をつたぐ事もあり、それ時室に山や海から食物が足等は要いと、生集めるのを過ぼれを沸と男は思はなかった、

おと島には淋当に住心地は好

かった、寒い強風が吹き荒れる時も母は流木を拾うために薪にしおく強かく

ようくられた、母はこの子供達に山コップと言う名前を付ける為を教へた、海が荒れに荒れに母が先

生に成つて九州から北海道迄の私に加勢をせた、母は一番

へ幕、到を幕や、掛け幕を私が僅

から拾つて来た白い貝殻を数へて

ふれた、

ボンド鳥から移動

大クーナ、船を持つて来る、私共

の住家を、引越を出上し

を也ル久コップがとて言う、望に私共

の後の家を下ル、其処に住まう

成つた、

昔々御茎は木木を開墾をを、原

少年を建てた、母はそれに牧草を

刈つて入れる手助けをした、母は

父が持つて来た宮殿の二十箱の
島の宮地に拵えた多くの巣箱を
時には父がムチヤクチヤに作れをした、
さ、れを海の中に投げ込むこともあつた、そんな時には母が傷ついた鶏を
たのである、母は鶏を
与えたが、子供達は決して男子達は
をを鶏舎の近くへ来ることを禁じ
ぬと厳命した、それは子供達が
は鶏を愛やかす、かと言うのであつた、卵
と言うのであつた、卵
には温かぬと卵を生まなくなる
と言うのであつた、卵は母の所得で
あつた、母はそれを種々な事に使
つた、或時は嫁が
とたり、或時は姉が
宮中を掃除した、養蜂に熱心な人々を
鐘や箱に金具を釘
物語、一章中休憩書き
母は冬の寒い夕
冥つをやつたりした、
切符、燈のに
と犬を

鏡をたよりに、母は
料理をしたり、金魚の
キやコイやメダカを
学校に行くのを
等地に並べたり、
かと思うと
た。時に母の作った
ケーキと紅茶。今思うともの
水がきる。おいものだった。

母は氏の人里離れた
も何も大都は
事件を
たのでは、パイオニヤ
秘訣をヤシと
暗い水底の中に
くと、やかを半時程
ドのやうなクリーム
みをクリームを取
年の中に巣を
ねを両足で

金魚は赤黒模様、
秘訣をヤシと気にっ
の中に生
黄金の口
お
の家持ち
は
土地で金都
赤黒

・食料を蓄えるのに
を巧みに使つて・現代
家をに適するに
に保存をするに
誰れでも・毒れ小島
で十人もの子
供を育て・原始的
生活を・営み
ながら・客
来を・厭わ
ず・それを
喜ぶやうな
ところの
ある女が・自己の
留はとをも
うと・とこ
ろが私の母は非常に
ついた実に西風の
お婦人であつた・
声をも大
立ても決して
つたの少いたのが
ちかお・とか雲と
した母の一言
は実に服従を
律のやうに吾々には響いた・
母の機智は実に
、其の判断は正確
あつた・
煙と火
ん煙モ
ー
ん煙
ー
ん煙
ー
ん煙

又た大人でも子供でも、其人を見抜く能力は大人でありながら、殆ど全く欠けて居ります。

母がお客に呼ばれて、又たお客を呼ぶ時、母が其に洗練されたる社交的に変った挨拶に成つた、母は其時代の有名な著書だの、学者だの、世界の出来事だのを学ぶと論じと話とを聞きながら、何時の間にか其等に関する自己の意見をも述べ、其時の模様をも語るのであつた。

私の母は偉大な天使であつた、もかも知つて居るのであつた。

母は吾々子供の為めに、美しい花園と鉄の骨格を持つた、強い身体とを与へて呉れた、そして其上に偉大な天使の様な智慧を授けて呉れた。

父が病死した後、母は吾々子供の教育が彼女の手に委ねられた時に生活の困難に当つたからである、十人の

子女に中等教育を授け、数人は大学迄も卒業させた、

母は吾々が成長したバスコヤが

この農園だけは郷里から来た、其農園から

送つてくれ、吾郷を吾々の台所へ送つてくれ、牛乳や鶏

々は勿論我の股にはキツト農園に

行つて一生懸命汗を流して働いた、今考へると

労働をした、今考へるとその労働

が吾々の魂の健康の為めにはどんな

にか為めに成つたろう。

此の意志の強固な、心さい婦人は

十人の息子、娘の生活の中心と成

つて居ります迄四十年の長い間

あつた、

母は吾々兄弟姉妹の家園長のや

うであつた、皆等しく成長をし

かうもハツピーな時と同じやう

に一身上の相談に母の所へ行つた

ものである、大人に成つた子供か

5世帯の相談を受けて
八人の孫が生まれ
私の母は典型的な母で
根限り働き、大家族主義で、
分の子供等の為めに
最善の生甲斐を感じ
た、
凡てに先ず子供の
神と実着な性格の男
なやうに訓練した
私等の家族が
憩のガーデンには
と三つの白い輪形の
普意の笑いを
花園の床の中心に
へは正に此世を
此のナーセリーを
ゝ京の町がある。

家庭は第一
母は子供達に
真心を養成
けた。即ち勤労を
た。

常盤木の
家族が
勤しんだ
女たちも
あつた、

雑草
五月に
それは母が

常盤木の
園の生活の中
根限り働き、大家族主義で、園
生き甲斐を感じ
た。

二十
母は
迎へた、

たが、彼女の夢はたいへん
ルやベートーベンのりーとなどの新曲の発表
には出席を義務づけた。曙町たる雰囲気
を母の在世のはずと同じく静寂そのもの
在郷、マサ（母）の
を実家かとそこをたずねる。
式以上の母親の念願が
他にあらわれる。

リルエット、ハラードイレット

キャナル・シレール

キャリブーの砂金

ムされをかち、載者

スティドをとを白性

牛を沿岸の市場に当

りブリ道を(守)回せ取、

たのだ、一八七二年

ら当をた物代議士

フレ、ガ川此の人

レグのフオーマとか

の大、義大、臣に最後と

道をリルエットから

アとグソと胡に沿

下とポーテイグを

トと、ポーテイグを

乗り林工に出るれか

モアクリーキに達出

ルエットに道路の開拓

を主張とた、それに

はリルエットに

帝民は海岸から直通鉄道の建設に成功のため大賛成、それに牛百姓は一日も早くと言う訳で期成会を組織し一九七三年に起工した。

工事は三万五千坪の予算で着手、元来蓄牛を追うを生業とする連中の道路開鑿に対し六十四哩も有る大木を爆破しては困難を極めたが一八七七年の夏は旱魃が続き岩を割り大木を爆破しては一八七七年の夏は旱魃が続き岩を割り大木を爆破しては困難を極めたが

を左右に加勢の砂金景気のうたをうたひつゝウヰルド・ウエスト一攫千金の夢に憑かれてオレゴンへ行き商に集つたオレゴンの男・彼れ等の集つた商店は次ぎのもの、よく土人の襲撃の活動写真を見るやうに木の馬車の隊商が土人に全滅されようとする危機を辛うじて免れてオレゴンへ着いた、其の中間のステーションに集り込んだ。

金も終つて二些方キヤリブーに乗つて元の金鉱地へ帰る者・他の金鉱へ行く者・混りをキヤリブーに乗り込んだ。

金鉱へ行く者は殆んど全部が騎馬か徒歩で、キヤリブーに乗つて行く者は僅かに数人に過ぎなかつた。

彼等は皆ガラガラ蛇の様に毒々しい眼をつけ、現在のパビリオンの様なものを建てゝ其の中に住んでゐた。

土着する者にはこれ等のステーションを買つて成功するや、カリフオルニヤに渡つた牛追ひ達が定りキに集り

を一九七七年十一月に、彼れの隣の家のホイーと(未)十人の力ウボーイ、コスターと三人で約二な頭の牛を市場へと移送を出発した、昨日三吹の中で途中牧草のある地点で野営をし牛を驚かす事も無く、又馬も、牛の様に神経質でもなく、谷底へ落ちる道、崖、上り坂、を三人のカウボーイが二百頭の牛を追かけて到着陽の出る頃、訳設道路の工事とは云へ乍ら、かなり険しい勾配は、車が通れる様に成れたものだ、加之私も生れて初めてのカウボーイに成ったと云ふ気持と、嬉しさとで一杯だった、それから一ヶ月も経ってから、再び三百吹に近いカウボーイに成る事になり、今度は牛の水源の言地へ三百吹を追かけて行く事になり、今度は牛の数頭数が多く、やうやう大陸横断を終えた、

幾分ともなく困難を感じ牛も人も
疲れ切つてゐるので、カーソルは一
歩毎に立止まらなければならなくな
つた。丁度その午後八時頃に到着
したのであつたが、時が時だけに
一同は寝静まつてゐた。
のコテージに宿を取らうとしたが
ノーハムの町は今尚マイレヤリー氏
たマクレヤリーの家は今尚マイル
ルド街の端に残つてゐるとのこと
ナルド人が一人ゐたにすぎない
、英陸軍に(中尉)
一マキノーと言ふ夫婦者のアイルラ
ンド人が居た、此人は典型的なア
イリッシュで、猛烈な気性で、気早
で、冒険好きな男であつた、英の
人に姉に当る、昔(結婚せぬうち)
が居た、生れたのは六月であつた、
妙だつたが八才の時父母に連れら
れてビーバーに来たのであつた、
独立者のカーソルはビーバーと知
り合つた、友情は言ふ迄もなく意に

山も、共産カーソとは乗馬で毎々
遠乗りをする程に成つた、共同的は
二つ戸一方のうちで牛から先に
帰りの家に休んでゐた、
共望者牛も馬も肥満と
雲つを、カーソとは乗馬でパカり
オに帰る時が来た、愛人と別れ
を惜み明年を約してを雲霧と
当をい、藤二を哩の旅に出た、(お出でる)

一

何かが忘れた様な、足の
運ぶ事が出来ない様な気持
やうやう吹け
二、三日旅を、続けた、
東へ〳〵と歩くがカーソの魂は
もう一歩も続く事が出来ない
ト、ホーップ、一約半余(来た時)
再に
国の頭を到回し、今
来た方向へ駆け出した、
そしてピクリとも
手を取り合ふ(から先まで)

メソヂストの教師の両親の娘として結婚したのが一八七八年秋牧場に若草萌え温陽メドーを眺す四月三日あの日、新婚旅行は四月ヒリオとヘーロドの我家から エールを経て、スステーヂコーチで約二週間の旅をつづけて、ヘーロドの駅から カーソンの家は カリフォルニアのルシットに隣する金山の宿場もあり 婦人もあつた。

花嫁は父の血を享けた、気丈、さ、

スに新しホームが始められた、

その果の パビリオンの窓口がハウ

無窓が鎖錠をするのであるが、吾

が家に到着の翌日最初の食事に他

の乗客はカリフォルニアの上に並べ

られた 西瓜を見た 西瓜を

少しケた、其頃、高価の

西瓜を西瓜を西瓜を

西瓜を西瓜を西瓜を

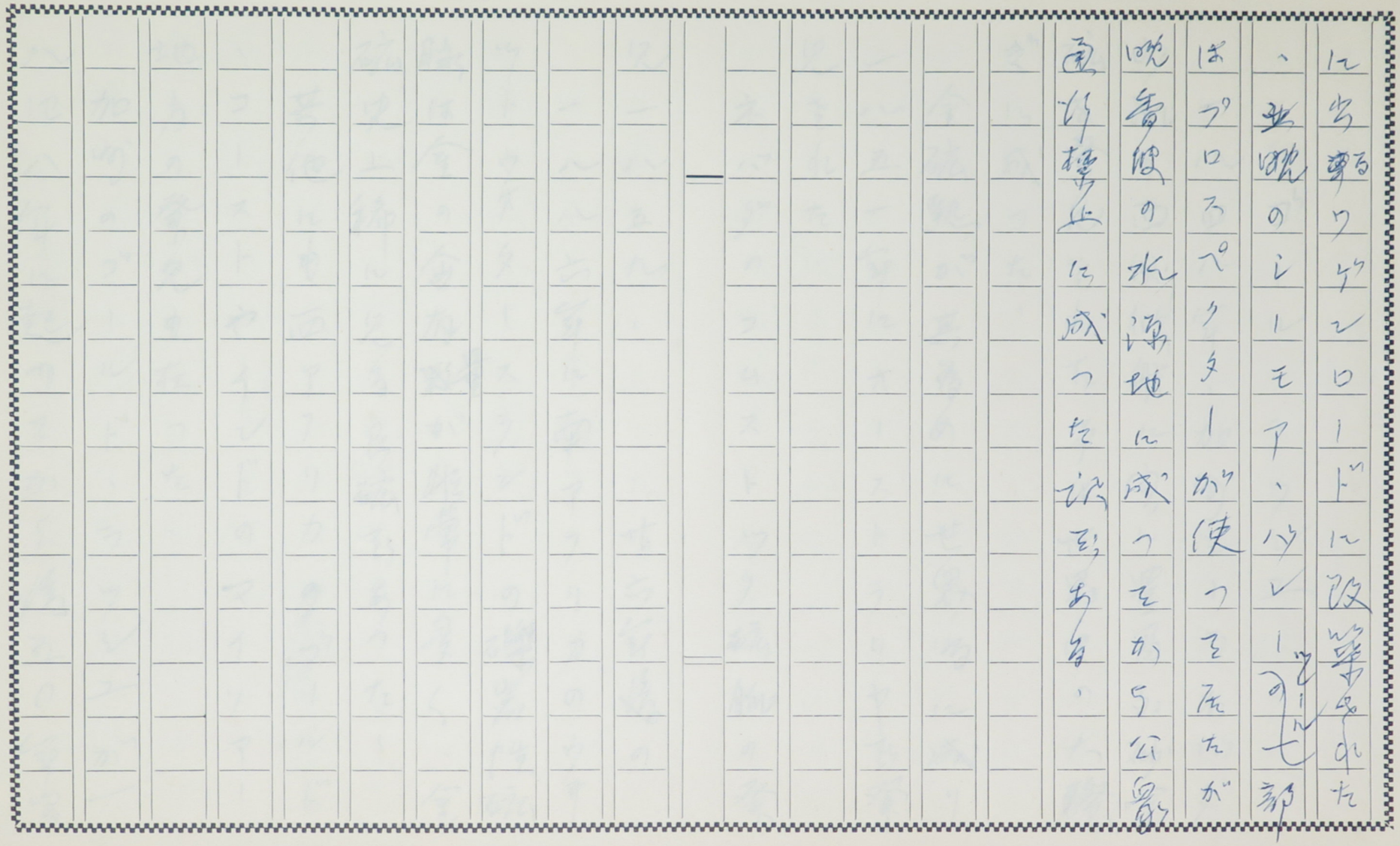
お善通のお寺にあった
のであね、
金平は統った。野犬どもを、
カーソとは跳ねをつけるやうに
ハットを殺り、四
五とたゝ、
ピリリ警笛とカーソとが
一何處へ結んだゞネ
嫁は捕縄を握りしめたまゝ
一寸も、おれが
の家を出るかゞ
金平が出るかゞ
――
そこでカーソとは何も言はない
そして捕縄を口に持
石に投げつけ、彼女を屋内に入れ
た、それ以來カーソと家には薬局
以外の人は殆んど
此の家庭には男五人、女五人の
十人の子福に恵まれたのであるが
皆パピリオとして生れた。
人が生れて間もなく
それ丈け九人の中
口ハット、ヘリ
ー、カーソとは

カムルーブス選出代議士でビクトリヤ州議会の下院議長とふり、共和アーチストロングホールド、はルエット選出代議士でその大佐の親勝にあり、金銀万能主義で、一族総出で流れ者り党結成に至るとともに、アヒルのサクソンの伝統を守り疎けたパピリオとヒルが民主党議員に当選かり夫妻から三人の大臣をみ出しまたその子は不自識ながらも父ナポカナダが宗教的統に基く、現在の連邦の構造を根本的に改革すべき幾次かの会議。

第二のリルエットリーキ、リレールはカーソンが一般投票の五割を一九一五年カラエルトからクエネルを総選挙で一部当選へバトラーを下りルエ

(2)

ル開拓住民の為めに



に当る辺りにロードに設置された
、地域のレーモア、ルレーションの部
ばプロスペクター
が使ってをた
晩春の水溜地に成つた
重砂標上に成つた

山頂の西側傾斜に実に一八四八年、加州にゴールラッシュ

石炭を発見されたことは世界の大騒

ぎに成った、

金鉱熱が無数の人々を世界各地より一八五一年に大量に流入し

一八五一年に大量のコムストックス石炭鉱脈の発

見を礼た、

一八五九、

一八六〇年に南アフリカの山中

トランスバール及びオレンジ自由国の

境界地帯に金鉱脈が発見され、

鉱夫は金の金塊数量が非常に多く、金

鉱史上稀に見る良鉱脈であった、

其他に西アフリカのゴールドコースト、ケープ、コースト、ヤクビルドの

マイソアー地方の発見も在った

加州のゴールドラッシュが一八四八年に起りてから僅五の年月

は世界の金塊時代とも言へやうに世界の各国に多く探検され、有利な金鉱を継続的に成功裡に開発されてゐるもの、

共産勢のカリフオルニヤの金鉱

発見者はカーミルと言ふ大工であつた、カーミルソノ、サクラメントの下流コロマの辺で、オーガスト、サクラメントに鉄道を加設の下メリカ河の南岸へソーを

一

つた、

無陰にやる男があ

サクラメントは金持ち

ルを建てつゝあつた

一八四八年正月廿四日、マーシヤル大工は水車の水

ヤル大工は水車の水

深く掘下げ軽石と

去るものから動揺に

と思つて手に取るとそれ

は正しく金塊であつた、マーシヤ

ルはばかのサクラーに乞い乞われもの
ために知らせ、二人で秘密にとやうとしたが、それは私国をあつた、
サクラーの他の商人も見付けるや、直ぐに他人が気付き、血眼に
成つた金掘りが群がつた、
金を見付けた、
芸者をを加賀の
が娘をつたのである
加賀は一千万弗の金を持ち出し
一八五八年迄の十年に五億五千
五百万弗の金を土中から掘り出し
た、
一方バクラーバ島
要塞のハドソンベ会社の先住民引
人達は不思議な船が南方から来て
僅かの数が上陸するの姿、ニヤ
ルーソン司令官は砲撃開意を今
今なほ、新辺地はエスイう

鉄筆に乗たの外や、加州から貿
品に乗た荷で、金
ちを貰ひ救いと言
共吸ひつゝりや造
で、唯一の貿易港だ
らうたの加州か
、つ井とレーソと
らつゝく交易に
、金塊をハマ
児を物だと造か
ニヤ一本で交易
、金塊りは早速荷
ツホルニヤの途金
を汽山買つを帰つ
ゲットだのブーツ
ゲットだのを他は常
ゲットだのを他は常
ゲットだのを他は常

ヲ
ウカラキヤスケート山脈ヲ南
ノ沼岸ヲステーラムヲ西ト山ト
、其ハヤハリテルイトレ、イテレ
ノ別墅中ニ逃ル、ノ魂ヲ負ケタ
ヒヲレ、マタレ、出発
一八五三年、出発
ヘト金塊リガ延ビ、
ヤリソテクリキヲ
一八五三、出発
ル河四ノ動ク動モ見付ケタ、
ケタ、又ハ南オレ
ルドガラフ神ノ海
ハ一ノ繋ガト成
一八五〇年ニクス
河ノクリーチガ
ス、バー、
ヨリ一八四九年ニリニチー
ノオロヒンヲ金ヲ繋ガ、
ハ一八四八年ニ金ヲフエカリバー
カラ出ニトタプロスペクタ
ヲ
ヲ
ヲ

当地から
砂金を出す事鉄道布設について
その事を探索の為に出掛けた時にも
米加両岸近くの
ところどころに（おーぷん・ぷりて
スト、ハイウエーに沿うてぷり
ストとに出る山
た。カナダ東部
それから一心五五年・コル
ビル要塞近くやはり
の社宅が見付け、境界
ソビエト領の
小倉鉱業株式会社
駐在員が
橋頭堡と成つた
山の一八五七年の
のイヂヤンの女が
佛蘭カナダ人の男
ヒトリ（故郷に帰る
南の船中で
ルで金塊発見の
ある
ヒトリ（故郷に住んで居る
橋頭堡から延
河の
トムソン
友
結婚をする
旅
旅から旅
に

を見ると、ピーエーのトムソと河
ではやく兄をまのと同じ船に
と話したのが早速一八五七年の秋
、ビーエー五人のカナダ人
ンドが五億を越してをトムソといへ
と急いだ。そしてをのりとからドムソと河を九哩遡つたニコアメと言ふ安い金鉱の石炭を禁兄をに帰つてから、再び金鉱熱が急速に一層ピーエーの金砿掘りのラッシュが始まつたもの
云がつた、それから翌一八五八年にラッシュ河やトムソと河の金砿のラッシュの起こるのだが、由来金鉱を発見された
此れはピーエーの金砿のラッシュ
である。

前一八三三年の事で
かう流遣された
ンドン、ダラ
六と言ふ有名な植物学者が大カナ

が、レーキに注ぐ小川の中で
ビール（公証人）を作るに充分な
金塊を拾ったり、あったり、それが
も十五年後に世界的な、加納のゴー
ルドラッシュと成長した。
言う（彼は自然科学の学者気質とは
金鉱探索の成功から驚喘すべき
の木果をもたらすと言うように気
き結果をもたらすと言うように気
が付かなかったものと思える。
式の学者ではなく、ダラスが
捨に行くトリヤ近くのスーク（早くから発達
に流れたWC分子と共記録に
学者も航長も別に大事件とは考へ
ちかったらしい
一八五八年の岡本カ
キの岡地方で、再び金鬼が発見
されたと共に流れは加納やオー
ストラリヤの金鉱探索が世界中に
知れ渡ってたと、ビールの

金玩具は音楽に基き、
塊の法を以て拵ら物
加何なりたる、
蒼見は偶然に行はれたものであつ
た、原始生活をした人
が、製物を選擇し等いてをる時、
流れの中に光る第
実とり石は薬かそれを和追で平たくした
りなどしてを愛人の
りしをたものである、
政治人が此一を
を見ると彼薬は、(ま)ど金を化られ
指輪や財布の鎖な
のを見を、土人
童玩具をなる
をこを毛皮交易所へ薄い金を持つて
行けばづをつ
と、や千つや昔
他土人達が欲しい物と交換しを喜
へると考へついた、
一八六の年の世
ムス、分ら

次の記録には

「金がトムソン川流の二つメ
の下流一哩半の処で仕掛
た、土人が水を呑み始めに、カ
ツプが全いのでコの目に成つ
て流れから迅く掬みをとゝ
ものがあるのでそれを持つて帰つたのが
金塊であつた、それから同族総
出で砂中の光る黄しい
金塊を拾ひ集め
たゝと云ふことを聞る、

此れは多分一八五六年頃の事
であらう、人類が永劫に探し求め
る望の「金」が全心に水に鉄気
土人の眼前に黄色の光を発
するとは名画に成りそうな一幅の絵
であるか、

一八五〇年代
ブラジル島の初代
総督ソリツケヤードが
英国の植民政策のアイル、ガ

レーへの報告について
ソト島の土人が非常に豊富な金砿石を持つて来たレヨを聞き、是非ソレヨを譲受けたいと希望シテイル島の海岸で土人の女が金塊を拾ひ上げた、其金塊の一部分を切り取つて他の土人がそれをプレゼントに需要に持つて来た事を其後ハドソベー会社が知り、ソレヨを買取ハドソベー会社の交換をした、其金塊は五オンスの大きさなつたが、それをクラトリヤのハドソベー会社の交換所に持つて来られた時には、北海道に移らしがられた、そこでハドソベー会社は特別船を仕立てソレヨを北米ケベック島のケベック港へ運ぶ事になつた、ケベック島の西北方のそツチエル湾へ調査隊を送り其金塊の砿石を持ち帰つたので一八五一年に八会社は第二回の探

の如く一層発展は大きくなつた

其後会社の砿石を持ち帰つた

険隊を出し共調査団は硫黄島は八十吹の長さ露出しを作り時で八十吹の長さ露出しを作り而も所々に約二十五%の金を含有するしと報告された。採掘は充分あるに採掘は充分あるに採掘は充分あるに

つて到着した、彼等は其の報告の状態をかあるくわしく探究しそして帰つた、

一八七九年ハワイ島は英領植民地に決定と、英統治権をつけた、ソンドイー会社は英人を国島に派遣つたが、会社の当時は在ハワイ領事館を設けた、ソンドイー会社はハドソンベイ会社の様な条件付きでは無かつた、

ハワイ島の知事をつたのでハワイ島に適当な港を英国が

ソンドイー会社が協力と言ふ為めに

個人と強ひ会社も営業者等あつたの

で共営業に辞任をした、

英政英軍事面から指令を受けると

言ふを申九ヶ條あり十ヶ月を経ても

急命が来り状態をあらそく

一八五一年九月再び統治権保ハ

かりそめ1会社の
多に繊維と出し
ムス、ダクラスが
知多に転化した
ろくな組織を作った、但し基地より方
はハリそめ！其
存の組織を作った
ろくな組織は商材
商材商行で論令や政